

生活廃棄物のリサイクル及び小学生のための啓発実践活動

- 1 自治体名 沿海地方
- 2 発表者名 ミンチェンコ クセニヤ、
ポジャールニイ地域、ルチェゴールスク村
- 3 活動名 第4総合教育学校、7年生、部活グループ「ラブロビンゾーニ」
固形生活廃棄物分別（電池、古紙）、処理、リサイクル、
小学生のために生活廃棄物取扱注意に関する啓発講義・実践活動
- 4 活動期間 2003年9月～2004年7月
- 5 活動場所 ルチェゴールスク村
- 6 活動参加人数 28人（11～14歳）

7 活動を始めた経緯

ルチェゴールスク村における固形生活廃棄物による汚染、住民の環境問題に関する知識不足など。

8 発表要旨

ルチェゴールスク村の住民にとって廃棄物の問題はもっとも重要な問題である。現在、村の人口は30万人であるが、住民は皆「スモッグ」という言葉の意味を知っており、しかも定期的に体験している。村のごみ処理場での最も単純な処理方法として、ごみが焼却されているからである。焼却の際には大気へ人間や自然にとって有害な物質が排出され、またごみ処理場や廃棄物からの汚染物質が土壌や地下水へ流れる。生活ごみとともにごみ処理場へバッテリーや電池などの水銀などを含む有害なごみも配送されている。また村立中央図書館や学校の図書館から毎年数トンの古い本が配送され焼却されている。このような背景から、部活グループ「ラブロビンゾーニ」はルチェゴールスク村における環境保全活動を2003年から実施することにした。

まず、住民の環境問題に関する知識レベルを上げ、生活廃棄物による汚染問題の解決に積極的に取り組むように説得し、特に若い人たちが参加するように呼びかけることを企画した。

第一段階としては、「家庭工場」という活動の実施であった。その目的は、小学生に家庭で古紙のリサイクル法を教えることである。ジュニア・エコロジストたちは、古いノート、雑誌、新聞などからダンボールを製造するため家庭工場を作った。また、子供向けの番組「カラーガラス」のためにダンボール製造法とそのダンボールの使い方などを簡単に説明するビデオを撮影した。このビデオのコピーを地域のすべての学校に配った。

第二段階は、「注意！有害廃棄物！」という活動の実施であった。目的は、若い人を廃棄物処理に関するボランティア活動に参加するように呼びかけることである。住民のこの問題に関する知識レベルを確認するため、村民にアンケート調査を実施した。指導教官と生徒たちによって村における廃棄物処理問題に関するアンケートが作成され、そのアンケートを5年生～11年生の生徒たちや両親に配布した。住民の廃棄物処理問題に関する知識レベルがすぐに分かるように、調査結果をグラフを用いてとりまとめた。

また、NGO「ペルヴォツヴェート」とともに、住民への情報提供のために「テトラパックはどうすればやせられるのか？」、子供向けの番組「カラーガラス」のために「注意！有害廃棄物！」のビデオを作製し、さらに廃棄物処理問題に関するラジオ番組も作成した。小学生や中学生のために、メンバー20名によって演劇も上演した。演劇の目的は、子供たちに分かりやすい形で環境

問題の重要性について説明し、テトラパックやペットボトルの正しい収集法や分別、処理法などを教えることであった。

生徒たちと両親へ情報提供のために有害物質に関するパンフレットも作成した。企画の内容を説明する壁新聞及び電池の数を記録し計算するための特別な用紙を作成し、また、「我々は、きれいな地球で暮らしたい！」という宣言文が書き加えられた。3日間にわたって村の学校で「最もたくさんの電池を収集する生徒」というコンクールを実施した。学校に電池収集所を設け、そこでメンバーたちが電池を受け取り、数を計算し、記録紙に記入して、優勝した生徒、クラス、学校に記念品が渡された。この活動の実施前に、沿海地方及びハバロフスク地方における電池リサイクル企業を確認しておいたので、この活動により収集された1086個の電池はハバロフスク地方のリサイクル工場へ配送された。

またメンバーは、地方政府の指導によって実施された「我々が将来ここに暮らす！」という事業に参加した。村では「ごみのモンスター」やポスターなどを使用したデモが行われ、デモのスローガンは「我々の村をきれいにしましょう！」であった。このデモと廃棄物処理問題は多くの住民や村役場の職員の注目を集めた。

9 活動成果

- 70枚(280人分)のアンケートを分析した。参加者の80%は、村の生活廃棄物による汚染問題が需要であると考え廃棄物分別をすると答えた。結果はインターネットで見ることが可能(<http://ecoprim.luchegorsk.ru.>)。
- TV番組「カラーガラス」にメンバーが取材した3つのビデオ、TV「パノラマ」に1つのビデオが放送された(視聴者数約6500人)。地方新聞「ポベダ」には「注意!有害廃棄物!」に関する2つの記事が掲載され(読者数約3500人)、ユース新聞「シボヴニク」にも情報を提供した。また、地方ラジオ局でも番組を放送した(約4000人)。これらの活動を通じて、住民が環境汚染問題に関する考え方をえるように情報提供を行い、有害廃棄物からの影響を減少させるように全力を尽くした。
- 演劇「テトラパックがどうすればやせられるのか?」を6回上演した。上演には8つのクラスと保育園「テレモク」のグループが参加した。230名の子供たちが廃棄物問題、処理問題についての情報を得ることができ、さらに各家庭で自らごみの量を減らす方法を学んだ。
- ルチェゴールスク村の3つの学校に50枚のパンフレットを配布した。30クラスの約750名の生徒たちが情報を得ることが出来た。事前に情報提供したことによって、電池収集活動の時には積極的な参加が見られた。
- 電池収集コンクールには300人以上の生徒たちが参加し、合計1086個の電池が収集された。総重量25キロの有害廃棄物は一般ごみ捨場に配送されず、子供たちの手で21500 m³の土壌が汚染から免れた。ポジャールスキー地方住民への「我々はきれいな地球に暮らしたい!」という宣言文に149人の生徒たちが署名した。

この活動の実施には、保育園の子供も含めて、様々な年齢の800人の生徒が参加し、参加者は有害廃棄物、その減量方法について学んで、自らの家庭で環境保全の取り組みを実施できるようになった。また、主催者であるの部活グループ「ロビンズニ」のメンバーたちにとってこの活動の実施はとて素晴らしい経験になった。また、ハバロフスク地方環境水銀リサイクルセンター長との対話は、将来、沿海地方だけではなく極東地域全体で水銀配合製品のリサイクル問題が解決されるという希望を与えてくれた。